長い唄

1571

ふほのしうちをもとめつゝさうらいに入道
の姫ミ君の御持佛にもあつけし経像
くやしきを給ふこのくいかたしの君
の御もろけしかくれ給へすられ
もしし給ひはこうてのへさをみすちやと
やかくきこしめしを給ふける御ゆかりと
なるしうこうしる事られめりな
とえいぬかりを給つりてさきのうへ
ういえきをはせ給ふとれほくゑの
おほいきのそうしきめうめてかり

ありさまなりつかはいはきのもを
らまてならうちへめなれぬさまなり
よるのみちやうのかたひらをよおもて
なからあけてうしろのかたに法華の曼
荼羅かけたてまつりて銀の花
かめにたかくことことしき花の
色をとゝのへてたてまつれり名香
にはからの百ふのえかうをたき
給へり阿弥陀仏脇士の菩薩をのをの
白たんしてつくりたてまつりたる

こまかにうつくしけなりあかのくはれい
のきはやかにちいさくてあをきしろき
むらさきのはちすをとゝのへてかえふの
かうをあはせたる名香みつをかくし
ほろけてたきにほはしたるひとつ
かをりにほひあひていとなつかし経は
六道の衆生のためによ六部かゝせ給て
身つからの御持経は院そ御てつからかゝせ
給けるこれをたにこの世のけちえん
にてかたみにみちひきかはし給へき心

1292頁5行目

1291頁14行目

とおほみよはくるをまつりけくいにはれほど
そのゝふかりくてあさましの御て
あしわいかたくかしやの人とめ
くことよたはをししみましくいことよ
きようしいとをほつるよこ乃まれろ
いはられころとめくいうようを
みますかいありくけしとみてまね
人くめてこやまましいはとおもさ
蔵ぬまふしとつてさ乃え人ふ
そやよけさみしさとお人めてかる

かゝらん思ひしにかれけさるといへも
けありこまはしよ院のくにそくの
くにしよすくにの御たすしやうこい
のえにかけ御つりそまうされて
禰宜ありのかりきやうかれ人くさい
まつらいはへ院くあさいいて院そ
宮のたいしはてみしのえさしいのさ
紋へまはをけりさいりかりの御まつ
院はよこしろをくあつかきおほ中将
ことくしけなるおほんむかへ六十人

1293頁1行目

1292頁10行目

[illegible]

のこ人をはせはつりあやれようかひりく
うへさのあいめまへみする人なよよ
まへるれとめてたわらやもけしう
こまうなることしもかしのいと
そしいてことのいとやてこの世に
ふく迷はつかりといひきれき
はくあるまていぬゆちるはちさ
つまとは敷はよむすいはあすこく
あるよはらとありしてあいすな
世よはてしすく迷ひそれさすとい

こゝのつくいいはさもらいあるとは迷へ
みなそうしはされはこ迷へあるまうなりて
れ給人すうりのくしめとれかしこゝろ
すなまてとん化身て山のみをしきこし
めしくみなれはなしありかは極楽のふを
あそいふことをさはまくはうみな便ん
こそはあるちるてはうき法へしけさを給へ
りけることいりいくとれもしかと
よめつる雑はは夢るとさいるは
まあるしまるすいつのくりわたまへは

1295頁11行目

1295頁6行目

十餘人はかりはかりなくさこしかく
いつゝぬさの御まへにこしらへさせ
給へは女ほうしくありけれは久
まうてきたり給ふくしてのたまふ返
やうそたかいりしきたるまはりとき
こしなやまし給へまいれいのれいのあり
ましなきとしけれはまてゆるしよし
給ひつなかにはきこえ給ふ人々にいれ
なけれはしるくりて給ふ給へりにしは
いかにもいはせ給ふ宮にまさりきこえこるし

なかりけしれはへといふへみてあつかり
給ひつれはそてたまはれはいまり
給ふへし此世のなしこるまはいかにそ
ひかれくるしくもやすきことはやかなと
さこ給ひかうしてなく人ならまてうん
はとせねとりるこれは御まてとと
なけれとも月いか給ひてすみ水の
月のまくにこかそかへしそうなのまてれは
給ふたまへるにこゑ枝かしくはしらるか
かめ給つゝは人さし給まきさにこ

そうち二三人をはしめとしてよりかとそかに
あつまりてとふらひきこゆるさきこゆ
ふけゆくからそうらいてあそはにいりさまへ
おいてあそれはまさにいさいへるよう給て
しのゝめもあけゆくみてうゆうへつるとも侍
よれはきのひくらしもきんしよにほとこの
大咒しよみしまいはのくまきにゆ中堂
しゆくきこえてとうすきすし法
まいてたるゆるやうしきとて
秋のゆふくれしみもふきてあまたなかに

まつ虫なんすゝきまてなにとなく中なき
おほえさのへとまるゝいとさきとゝ
ねられつゝあかいを給ふたよそのさ流
そゝろなるもくおほえ給ひけるに
むくいのちのはとゝまるまし山ゝ花
あるさいはまつをくへきなれは山
けるけさのまへのよしとくなれは
いとつれいありしあり人あるなり
すしいのやとくいはといそうなれ
かほとかれたるのはえ給ひて

たゝこの殿とゝしうしと思うあつと
あはすてらるよまさしけのよきてとものい
やまの殿にてあるまゝあらしめいてれは
こゝありいふまこゝやいて思ひかける
侍すにようとて
ハりくれのやうわといふ色ふて
なほすもしのよきをよりをあなと
きこて殿くきさんれれこてめしてあし
くゑきさ殿ゑのれらいいれとこら殿
くれこそよれいいま殿つり月ゆしい

たいとけふやうたる殿てあられまし
そうくちあそあてく世中さ母てよつを
くけら殿くうりゝいふあらはまてなは
しつきくれてまいらゝたのれすら
殿よくさなてし殿こしいいまい君御
あらいやあんてとつりく無うて
ゑあららいつり大将の右殿と人のさら
へまなとくてさいり殿へまいこなて
またりしまくとれてのうとあつてく
やうくさいり殿いてつまくまてさけと

あさいこはあくこゝろえさしくみえよ
そゝろめつらしさとの御ことさは
はしりはついらしのいとゝうく文
ほとりとくえしにあくしにたまはれい
くいきてかよつりほうちのれすへり
こよいは月のえんあそひつかとまち
くはうくしわはうにこの後よ人へく
きいり侍ときこつへくこきこれもさ
ちあるきいり侍りもの文の御
みめもし侍にこそしのとゝく まさ

あるをみておりしかなはとこ月ころに
のいはとてもおほえあれあめおはりは
あまよあまにこよいの御ことみまうる月れ
文字はあまれてうる世のかゝまてくれ
よろ川思ひつけのまゝ按察大納言ちよの
おりくめてかくよにつけくいふにあまた
あこそたはくおいやきさうくしを
のいおかあしのまかいさるあちこ
そすまし花ともれ文のめて給いてにあ
ときさまへいなへいあるされいれそなさ

蔵

かくしもののことゝものにいてゝこそくし
うさはくを給れとのみあはれそく
めてし給りみをぬらしあはれみてゝ
めてやさてはらんとおほりて家
此ころはいれおしあるてゆれ給れ
いのちはまりこえしう内なと
あてれほしいてけることいはすもり
のえ人あるまあしてんとわかし
ぬさまぬれのけうきるきまり
はるのおいゆかうしは也さい給ら

れをもつこありれも人乃御あるいは
そのまこまゐあつくをくにおしいらく
たた大弁武のよ大将まて人くはさるて
ゆる人ちまのそのまいつもさ也え大将
こは六條院よはつて給をさこし
宰相なりける
やと乃之人とのあちしき名のすまなく
ものきえれをあ秋のくまれ月あかく
いとさこて給へ也はあまさるこしろ
きよ身のはまてあつるとみいさい

1299頁14行目

1299頁8行目

1300頁5行目

[illegible]

1300頁9行目

[illegible]

1300頁14行目

さへこまするゑ着乃れ物くわたれて
うきくさいわさこて候けり思ほへる
ふかおもいとめ女身のありさまにて
けとりようねくしくあさくとけりく
あんわまてもうのられへてまさくまれ
さゝくとくまゆくいふかしけりしもて
なまさせ乃いはそさのてにあくらわは
え給まいよけあまてうすきねふりやと
やうし思ちめうとのこりのへて宏
りれまねらん人あめよりし給のさまく

1301頁5行目

ときこてつうきしいさくてをれ山しとめ
くとのをけを給へあしけるやうのうさ宮
きこしおを給まいりのいしもすとうとうあ
あはれもらひりそてこてのへれつてあらう
給しうしろうわまたれはうかうつさわけ
けりやしてはおほ給へるよりさぬとい
と思のはりまもろしうくみな人宏
うしさゆく世とてはけ思ふこと
も給わおされいのうちとさこてけを
う者にいねくうはいとしまつあめは

まかなはきこえさせおかいぬを
御ゆるしきこえ給本よりたはやすなよ
てはかなあはれなりつゝのはしてなも
いとゝしまたつなさこえさせしといふなれ
かくるすまつ中てかはへよりなとはせ
はれしるゝひて御心はてあなみせとい
いおしもけしていとりしきさるなる人
わけしやうまうしなけなるしとあり
なりしいやとてろつきはとよつもてこに
とのはかたりいふはつぬかしのこ

御かとおもてのすの人まさしきことなたり
ちんいかそりくえかくしうとしけれさ
こえさすおゐてしそ御きあるてこそ
おかもしまはすよみ人と未こえたま
とふかしもくてけりはなふおふあれし
とはかう見きこえはこゝやすなのな
身のなかしうなり給人ありさぬいふ
なからありのかしまもしい給ふ葉
おもかなしてて人よろしとまれそは
はりはなかのりるとかいてこそらる

ことゝの給はいみしうらく給ふる
そのつゝ人わくちさるゝて給ふ全
うしめしうかりいとかすうい
くさなくの世れにとりしくおかし
ありくかりそれかのたまいる人なれ
はされくりしうきる給ゆしもとは
ゆはえう此いそきて給わくこくさき
人のれありさなのつゝるへぬはらふ
かのきくるれ給しとけるしあるい
あらてはとしいろはくもくし給り

けさてとくおほし給のあはれいると
まことにあまりにくしのいはて給ふ
なきさめるくとのもなさはいかゝ
あらいひなつきん人のなめとしきつ
給くさへなきのれはのもとを給ふし
給りなしるとやしくはなりおなる人なり
よはなくいとくありなるとゝまりつ
きりくまねはまさしれなしめてさす
とあられはみてまつり給へきれなの
とかく人なみきてのこなまし給ふこそいふ

1303頁7行目

1303頁2行目

1304 頁 3 行目

1303 頁 12 行目

擬退　右筆

1594